

No title available

Publication number: JP49038335
Publication date: 1974-04-10
Inventor:
Applicant:
Classification:
- International: B60R21/26; B60R21/26;
- European:
Application number: JP19720083692 19720823
Priority number(s): JP19720083692 19720823

Report a data error here

Abstract not available for JP49038335

Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide



特 許 願

昭和47年6月13日

特許庁長官 三宅 幸夫 殿

1. 発明の名称 圧力応動制御装置

2. 発明者

住所 東京都港区高輪三丁目1番5号
氏名 小堀 保三郎

3. 特許出願人

郵便番号 108-0001
住所 (町) 東京都港区三田三丁目1番20号
氏名 (法人) 株式会社ジー・アイ・シー
代表者 小堀 保三郎

4. 添付書類の目録

- (1) 明細書 1通
(2) 図面 1通
(3) 願書副本 1通
(4) () 通

47 083692

方式 特許

① 日本国特許庁

公開特許公報

① 特開昭 49-38335

④ 公開日 昭49.(1974) 4. 10

② 特願昭 47-03692

③ 出願日 昭47.(1972) 8. 23

審査請求 未請求 (全3頁)

庁内整理番号

⑤ 日本分類

6774 36

80 K2

6600 36

80 B1

明 細 書

1. 発明の名称

圧力応動制御装置

2. 特許の請求範囲

1. 走行体の外板またはバンパーの突位に反応するピストンを滑動自在に嵌装した非圧縮性流体を収蔵した流体室に連結する、流体回路に圧力抵抗部材を配設し、走行体に所定以上の流速度が作用したとき上記圧力抵抗部材が応動することにより、流体回路が開放され上記流体回路に嵌装された駆動フランジヤを駆動せしめることを特徴とする圧力応動制御装置。
2. 走行体の外板またはバンパーの突位に反応するピストンを滑動自在に嵌装した非圧縮性流体を収蔵した流体室に連結した非圧縮性流体回路に所定の強度を有する部材を配設し、走行体に所定以上の流速度が作用したとき流体の圧力応動により部材が破れ流体回路が開放されるようにしたことを特徴とする特許請求1記載。

載の圧力応動制御装置

3. 発明の詳細な説明

1. 走行体の衝突事故に於ける衝撃の発生は外板またはバンパーの接触を第一歩とするものである。
- この接触にて起る外板またはバンパーの突位をピストンを滑動自在に嵌装した非圧縮性流体を収蔵した流体室の流体回路に嵌装された駆動フランジヤの応動は極めて敏感である。
2. 駆動フランジヤの作用は走行体に所定以上の流速度が作用したときにおいてのみ上記の駆動フランジヤが駆動する構造のものでない。安全装置の機能は完全とはいえない。
- 流体回路と駆動フランジヤを連結した接点に所定以上の圧力が加えられたとき流体回路が開放されるような開閉装置を設け液圧の制御を行う必要がある。
- 本発明はこの開閉装置として液圧に対する抵抗部材例えば開閉器の支持にバネの応力を用い所定以上の液圧が上記の開閉器を支持する。

バネの応力を超えたとき上記のバネに支持された膜が閉き流体回路が開放され液圧の伝達により駆動的に連結されたフランジヤが駆動するものである。

4. 液圧に対する抵抗部材として封板を用いることも考えられる。

封板は所定以上の液速度が作用したときピストンの応動にて封板の所定の強度を超える液圧にて封板が破れ、駆動フランジヤを接続した流体回路が開放されるものである。

非圧縮性圧力応動機構が早なる圧力応動の機構であるのに対し、圧力応動に一定の基準を設けて作動を制御し、所定の液速度が作用したときに於いてのみ流体の伝達が行われことを必要とする非圧縮性機構の開発である。

4. 図面の簡単な説明

第1図は自動車衝突時に起る二次衝突から乗員を保護する安全装置に本発明の圧力応動制御装置を応用した配管の一例で、不作動時の断面を示し、(1)は自動車の車体、(2)は圧力応動制

制し、(3)は封板(4)上の溝で図に示す通り円の一部が欠けた状態で設けられていて液圧により封板(4)は溝の部分だけが破断し、(5)の部分によつて元の附近に保持される。第3図は封板(4)の断面の詳細を示す。第4図は第3図の状態からバンパー(6)の圧力により封板(4)が破れて圧力応動制御装置が作動した状態を示す。

特許出願人 株式会社ジー・アイ・シー
代表者 小 堀 保 三 郎

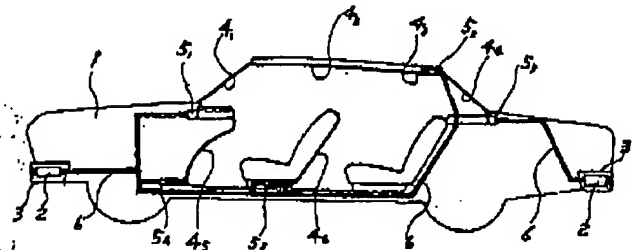
特開40 3033の制御装置、(8)はバンパー、(9a)は安全装置(バックリング弾性体)、(9b)は安全装置(9a)を駆動するフランジヤ、(10)は流体回路の配管である。第3図は衝突時に第1図の圧力応動制御装置(2)により、安全装置(9a)が作動した状態を示す。

第3図は圧力応動制御装置(2)の詳細を示す不作動時の断面図で(7)は受圧部、(8)はピストン、(9)は膜、(10)は溝(11)の回転軸、(12)は回転軸(11)に接かれたバネ、(13)は流体室、(14)はフランジヤ、(15)はフランジヤ(14)に固定されたピストン、(16)はマスク、(17)は流体で、(18)は回転軸(11)及びバネ(12)は圧力抵抗部材である。第4図は第3図の1-1断面を示す。

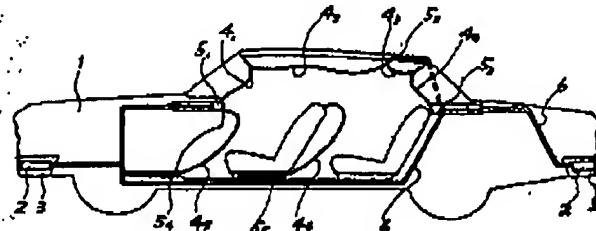
第5図は第3図の状態からバンパー(6)の圧力により膜(9)が応動した状態を示す。

第6図は圧力抵抗部材として封板(4)を使用した例で圧力応動制御装置の不作動時の断面を示し、(1)は封板(4)を固定するためのリングネジ、(2)は流体室である。第7図は第6図の1-1断面を

第1図

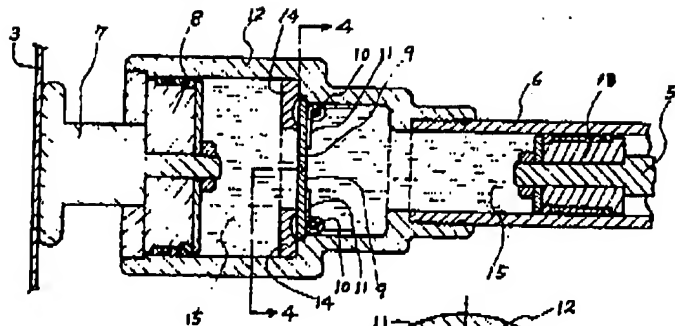


第2図

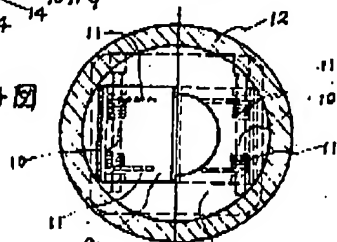


特開 昭49-30335 (2)

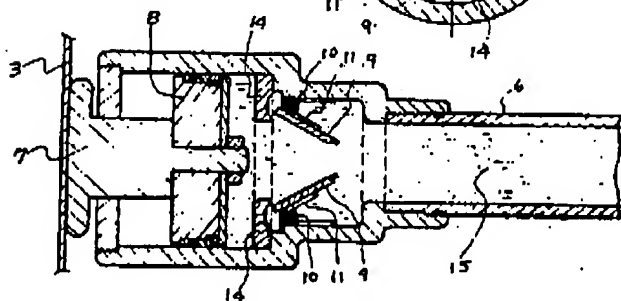
第3図



第4図



第5図



小 堀 保 三 郎

昭和48年2月20日

特許庁長官 三宅 幸 夫 殿

1. 事件の表示 昭和47年特許願第085692号

2. 発明の名称 圧力応動制御装置

3. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

住所(居所) 東京都港区三田4丁目1番20号

氏名(名称) 株式会社ジー・アイ・シー

代表者 小 堀 保 三 郎

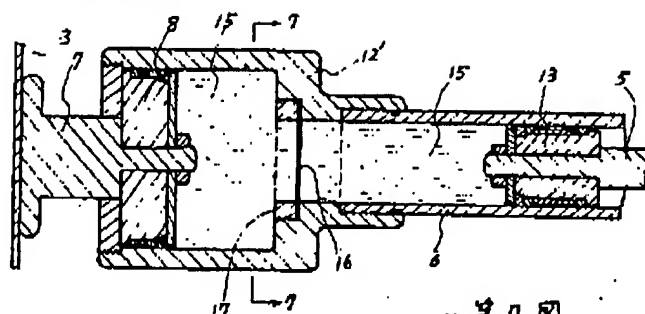
4. 補正をする物件名 願書

5. 補正の内容

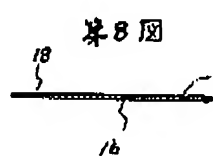
願書を次の如く補正する。



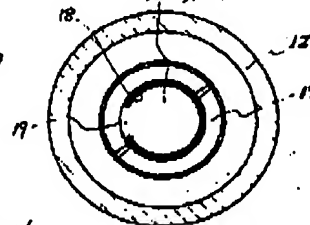
第6図



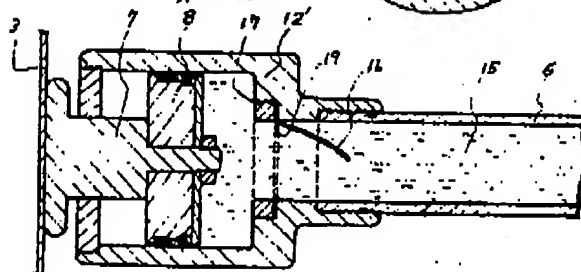
第8図



第7図



第9図

特許願 (特許法第88条ただし
第の規定による特許出願)

昭和47年2月20日

特許庁長官 殿

1. 発明の名称 圧力応動制御装置

2. 特許請求の範囲に記載された発明の図

3. 発明者

住所(居所) 東京都港区高輪3丁目1番10号
第一生命伊豆子アパート

氏名 小 堀 保 三 郎

4. 特許出願人

郵便番号 100

住所(居所) 東京都港区三田4丁目1番20号

氏名(名称) 株式会社ジー・アイ・シー

代表者 小 堀 保 三 郎

5. 添付書類の目録

(1) 明細書	1 通
(2) 図面	1 通
(3) 願書原本	1 通